

# 酒とパソコンと少々のミルク

## 牛の繁殖管理支援ツール開発奮闘記（2）

分娩間隔は、**空胎日数+妊娠期間（280日）**ですので、分娩間隔を短縮することは空胎日数を短縮することと同じことを意味します。

空胎日数は、発情発見効率、分娩後初回授精日数、受胎率の3つの要因で決まります。

これらの要因を設定すれば、計算式で空胎日数を算出することができます。計算式はちょっと複雑なので省きますが、読者の皆様のために、Web上での繁殖計算機を作成しました。技術改善の目標設定等に、よろしければご利用ください。

分娩後初回授精日数	<input type="text" value="100"/>	日
発情発見効率	<input type="text" value="70"/>	%
受胎率	<input type="text" value="70"/>	%
予想される空胎日数	102	日
予想される分娩間隔	382	日
<input type="button" value="再計算"/>		

<http://www.toresa.biz/tool/B-Calculator/>

携帯電話でもご利用になれます。



酪農宮崎の3月号では、畜産試験場の鍋西氏は発情発見効率を高めることが分娩間隔を短縮するためには近道であることを提言されています。

同時に、分娩後初回授精日数の短縮も分娩間隔の短縮にはかなり効果的です。

もちろん、受胎率を高めることも重要なのですが、受胎率を高めるためには、いくつかのハードルを越えなければなりませんので、とりあえず発情発見効率と分娩後初回授精日数の改善に取り組みたいところです。

そこで、先月号からご紹介している牛の繁殖

管理支援ツールは情発見効率と分娩後初回授精日数の改善を主な目標にしています。

携帯電話の利用にこだわったのは、利用者が牛舎等の現場で、データが発生した時に、直接データの入力を行うためです。自宅に戻ってからデータ入力をしようとする、ついつい忘れがちになってしまいます。

ただ、私の年齢のせいかも知れませんが、携帯電話のキーボードは小さくて、画面操作もむずかしく感じています。そこで、できるだけ利用者の負担にならないような操作画面に配慮しました。

とくに、利用者を認証するために、一般的にはユーザ名とパスワードを入力しますが、これを省略したい。パソコンではユーザ名とパスワードを記憶させることもできますが、携帯電話ではそれもできません。

一方、携帯電話には個体識別情報があります。これを利用すれば利用者の認証を省略することができるので、さっそく飛びつきました。

しかし、先月号でも書きましたが、これが通信会社ごとに仕組みが違って一苦労です。いまだにトンネルから抜け出せていません。引き続き皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

なお、この支援ツールは、現在のところパソコンやスマートフォンでは利用できません。携帯電話向けの開発がひと段落してから、パソコンやスマートフォンへの対応を考えています。

<http://www.toresa.biz/test/rule.htm>

[master@toresa.biz](mailto:master@toresa.biz)

（成光昭男）